

今村復興大臣ぶら下がり記者会見録（宮城県訪問）

（平成29年4月22日（土）1630～1638 於）南三陸町）

1. 発言要旨

本日は、御案内のように名取市、仙台市、塩竈市、南三陸町を訪問いたしました。

名取市では、土地区画整理事業あるいは災害公営住宅の出来上がり具合を視察してまいりまして、着実に進んでいるということで、大変うれしく思いました。来年の12月には全部出来上がって皆さんが入居されるということで、長いような短いような7年半ということになるかと思いますが、本当によかったと思っています。

それから仙台市では、「株式会社みちさき」というところで大規模な水耕栽培の施設を見させていただきました。非常に合理的に、そしてまたトヨタ生産方式「カイゼン」を取り入れた取組をしておられました。これは、こういった被災地の復興に限らず、ある意味では、これからの日本の農業のあり方というものを示しているんじゃないかなと。どんどん高齢化が進んで担い手が少なくなるといろいろありますが、そういったものを打破して、そしてまた日本ならではのいろんなおいしい物を作れるんだということを実証してくれている、そういうことも感じまして、是非この被災地の農業の復興ということで、また今後大きな力を発揮してもらいたいというふうに思っております。そしてまた、障がいを持った方も、ここでお手伝いされており、大変私の印象に残ったところでございます。

それから塩竈市では、復興庁も参画いたしました釣り大会、「かれい釣り全国大会 I N 塩釜」に行ってみりました。実は、私は国会議員で作っている応援団といいますか釣魚議員連盟の幹事長をやっております、麻生副総理はその会長でございますが、いろんな日本の恵まれた自然、そういったものを生かして、そして、もっともっと海に親しみ、水産業もこの遊漁船、釣り船ですね、そういったところを通して、この沿岸漁業の支えもしようじゃないかというようなことも加えて活動してきておったわけでございますが、特にこの東北地方、なにかんづく三陸にかけては、正に世界三大漁場ということでありまして、これからも遠洋漁業等はいろいろ問題がありますが、しっかりとこの沿岸漁業もそういった釣りだ、遊漁船だ、そういったものも含めて地域の活性化になるように、また東京からも近いわけですから、いろんなお客さんが釣りの人が来るとかそういったことで盛り上げを図っていきたいというふうに思っているところであります。

そして、今、この宮城県漁業協同組合志津川支所戸倉出張所に来

ていろいろお話をさせていただきまして、いわゆる A S C 認証を初めて取得して今やっておられるということで、これもすばらしいなと。私も海についてはいろいろ関心を持っているわけですが、こちらでは、例えば、いかだを 3 分の 1 に減らした。当初はみんな不安そうな顔をしていたけど、減らした分だけやっぱり成長が早いということが実証されて、非常においしいカキができたということでもあります。こういった地域の恵まれた自然をいかに生かして、そして地域の活性化を図っていくか、そうすることが、いろんな今インフラストラクチャーもどんどん出来上がってきておりますが、あと産業・生業の再生ということについては、地域資源をしっかりと生かした取組というものが、これからこの地域を、豊かなふるさとを作っていくのに大きな力になるなということとは改めて感じたところであります。

そして、先程、さんさん商店街に行ってみまして、ちょうど去年の秋、総理と高速道路の開通式を兼ねて参ったそのときはまだ仮設商店街だったわけですが、今日行って本当にいいのができたなと思いました。特に私が行って最初に目についたのは、やっぱりこの南三陸の杉材を使ったあの木造の建物、これ、すごいな、すばらしいなというふうに思った次第でございます。中も極めてうまく通り抜けできるように、いろんな買い物も便利なようであるし、町長さんに聞いたら、町長さんもびっくりで、月に大体 20 万人近くお見えになると。そして、昼間はどちらかというと仙台訪問、よそからの人が多い。そして、夕方になると地元の人がお見えになるということで、うまくこのサイクルが回っているということでありまして、こういう評判を聞きつけてまた遠くからもたくさんの方がお見えになる。そうするとまたいい物がそろえるということで、非常にいい循環になっているんじゃないかなというふうに思っておりますので、これからも更に充実をして頑張ってもらいたいなというふうに思っております。

私もいつでもどこでも言っておりますが、とにかく被災前よりビルド・バック・ベターということで立派なふるさとをつくって、そして皆さんが明るい顔で暮らしていける、そういうことを目指してまた頑張らなければいけないという思いを強くしたところでございます。

以上です。

2. 質疑応答

(問) まず一つ、A S C の関係なんですが、今まで認証は取ったものの、販路の開拓だったり、あるいはその付加価値を付けて売ることができないというのはやっぱり地方の限界もあると思うんです

ね。そういった点で、今大臣おっしゃったように、生業を再生するためにも、やっぱりせっかくのブランドを生かすために、もっと知恵とかいろんなもののサポートが必要なんじゃないかと思うんですね。そういう点での復興庁としてどうサポートを考えていくことがあるかということ。

もう一件は、ちょっと話は変わるんですが、選挙区の区割りの関係で、南三陸町が宮城の５区に移る。今まで通っていた代議士が、復興の状況を全部知っている人が変わってしまうという不安が被災地に、特に南三陸にはありましてその不安が特に大きい。今後、その復興庁としての復興の道筋と、不安を抱えている住民がいる中で、どうやってその人の、難しいかもしれませんが、どう対応していくかというのを教えてもらっていいでしょうか。

(答) 第１点の点ですが、これは正に日本の初めてのチャレンジでありまして、非常に素晴らしいと思います。先程言いましたように、日本の沿岸というのが、こういった養殖業に適したものもありますから、その強みを生かして、正に獲る漁業から育てる漁業に行くということを、正にトップランナーの役を担っていただくと思いますので、復興庁としても、水産庁ともしっかりと協力をしながら、連携をしながら、どういうところに問題があるか、どうしたらいいのかということ、この生産現場から消費の現場まで通しでやれることをしっかりと検討してお力になっていきたい。そのためのいろいろ御要望等あったら、是非また私のところに届けてくださいということでもありますので、復興庁としても全力を挙げてこれに取り組んでいかせてもらいたいと思います。これはここに限らず、この三陸沿岸みんな共通の課題だというふうに思っております。

それから、選挙区の関係ですけど、これは私も大臣としてあんまり大きなことを言えないのかもしれませんが、実は私の選挙区も３から２になりました。そのときに思ったのは、もうつくづく本当にこんなに人口だけでこういったことを決めていいのだろうか。やっぱり国家というのは国民と国土と、そして私は文化と、この三つで成り立っていると思いますから、もう少しそういったところを勘案しながらやっていくことが必要じゃないかということはおかねてから言っておったわけでありまして。

この被災地についても、今日、町長さんから改めて南三陸町の事情を聞きまして、これは今まで、ただでさえこういうさっき言った問題があるのに、特にこの復興を最後の仕上げといいますか、みんな一生懸命やっているところで、そういったところは特別な配慮をしてもいいんじゃないかなということ、今日また改めて感じたところでございます。何かいろいろな事情はそれぞれにあ

ると思いますが、そうやってそういう復興をしっかりとやり遂げるということで、特にこれは特例を作ってもいいんじゃないかということで、私もこれちょっと物を言っていきたいと、復興大臣としてそれは言っていきたいというふうに思います。

(問) 自主避難者の発言以降、被災地の方で不安が広がった部分もあると思うんですけども、改めて大臣のほうから避難者、被災者に対する取組の決意を教えていただけたらと思うんですけども。

(答) 自主避難の方については、委員会等々でも言っておりますし、私の真意もそれなりに伝えているわけではありますが、結果として私の言葉の伝わり方あるいは用語の使い方がまずくて、それで心配をかけたことについては、改めてお詫びを申し上げます。

その上で、やはり今日こちらに来て改めて思ったのは、やはりこうやって地元で頑張っている人もいっぱいいるんだから、そういう人たちのためにも忘れずに、あるいは当地でも被災してお家に帰れない人もいるでしょう。そういった方もしっかりと頭に置きながらやっていきます。何よりも、そしてまたそういうことも大事だし、こういった生業を盛んにして元気にして、そしてやっぱりみんなが働き場を作って未来に向かって希望を持って生きていける、そういう前向きにやっていくことも本当に大事なということに改めて感じました。

(以 上)